

Q 人材センターの拡充は

A 業務委託の推進を継続



▲社団法人格を取得し、事業拡大が期待されるシルバー人材センターの活動



Q1

滝沢村シルバー人材センターは16年盛岡市シルバー人材センターより独立し、昨年12月社団法人格を取得19年度より、事業の拡充が期待されます。団塊の世代の定年を迎える年に当たり、同人材センターでの就労は、生きが



山谷 仁 議員(新志会)

いづくりや健康な心身を維持するための重要な役割を果たすものと考えます。村は高齢化時代に向けてこれまで以上に予算措置を含め支援をしてゆくべきと思いますが、その方策は。

A1

シルバー人材センターは高齢者の労働派遣や技術講習を中心に活動しております。設立当初の会員56人から現在は189人、受注件数も16年293件、今年度は707件と飛躍的に伸びてきております。19年度からは国の補助金が交付されておりますので同人材センターの事務局機能が充実し就業斡旋業務の促進、技能講習会、安全対策を重視し、事業拡大が図られると思われま

す。今年から団塊の世代が退職し、今後はますます高齢者の生きがい対策、健康増進などの面からも同人材センターの果たす役割は大きく、村としても会員確保の村民周知や村行政に

係る業務委託の推進などを継続しながら、同人材センターが自立し活動できるよう支援してまいります。

Q2

役場職員の1/3程度が他市町村に居住していますが、村税収入などを考えると、出来れば村内に住んでもらいたいが考えは。

A2

現在役場職員は297名です。その内村内に居住している職員は179名、盛岡市に居住している職員109名、その他8名となっております。

税収面では一定の効果は考えられるものの、基本的には居住地は自由に選択できるものと考えます。

Q 水道料金の引き下げは

A 収入の増が見込めない



桜井 博義 議員

Q1

① 水道事業単年度利益、ため込み利益は一般常識を超えると考えるが適正か。

② 本村は恵まれた水資源から水道料金の引き下げが可能ではないか。

③ 独り暮らしや少量利用の立場から、下限の料金設定を細分化できないか。

A1

① 剰余金合計額が23億6,400万は、現金保有ではなく、主に宅地開発内の配水管等で創設から現在まで繰入れたもので、残りが減積立金と純利益となります。

② 創設より30年が過ぎ、更新時期を迎え、災害に強い施設の構築が必要で、26年まで62億円の事業費を予定し、収入の伸びは見込めない状況から引き下げは考えていません。

③ 水道事業経営審議会の意見を聞き、見直しを検討しています。

見直す点では節水や公平性、需要者にわかりやすい料金をめざします。



▲老朽配水管（塩化ビニール管）の更新がはじまっています

高くて払えない国保税

Q2

① 長期滞納者の実態と、生活が困窮者への対応策は。

② 障害者、乳幼児、高齢者には資格証明書の交付は止めるべきと考えるがどうか。

③ 高過ぎる国保税は、低所得者層中心に引き下げるべきと考えますがどうか。

A2

① 収納率17年度69.2%、と県下最下位で危機的状况にあり、担税力の調査をして滞納整理を進めます。

② 相談に応じず、分割納付を守らない方ややむ得ない場合は交付していません。

③ 軽減および減免措置などもあり、新たな引き下げは考えていません。

介護保険・利用料軽減策は

Q3

昨年度からの保険料・利用料の値上げに一部の軽減策もありますが、低所得者に対するの独自軽減策は。

A3

災害時等の保険料を減免して、います。

利用料は一時的な生活困窮、福祉法人の費用を一部助成しています。